

平成 29 年度避難者アンケート調査の結果について【概要】

1 調査対象等

- (1) 東日本大震災により山形県内に避難されている 725 世帯
- (2) 調査方法：郵送によるアンケート調査
- (3) 調査期間：平成 29 年 7 月上旬～8 月上旬
- (4) 集 計 数：176 件 (H28：342 件)
- (5) 回 収 率：24.3% (H28：31.6%)

2 調査結果のポイント

- (1) 家族状況は、「母子のみ避難」が前年の 24.6%から 23.9%となり、割合は年々低下
- (2) 山形での生活について、困っていること・不安なことは、「生活資金」が最多。
 - ・困っていること・不安なことは、①「生活資金 (68.2%)」、②「健康 (47.7%)」の順。対前年比では、「生活資金」が+3.6 ポイント、「健康」が+5.0 ポイント。
 - ・生活資金の収入源については、①「避難者の給料や賃金 (55.1%)」、②「貯金 (39.2%)」、③「避難元の家族の給料や仕送り (27.3%)」、④「年金 (26.7%)」の順。
- (3) 今後の生活の予定については、「もうしばらく山形県で生活したい」が 41.5%で最多、「山形県に定住したい」が 35.2%で、合計、8 割弱の方が山形県に留まりたい意向。
 - ・今後の予定については、①「もうしばらく山形県で生活したい (41.5%)」、②「山形県に定住したい (35.2%)」、③「避難元の県に戻って生活したい (11.9%)」、④「どこで生活するか未定 (9.1%)」の順。②「山形県に定住したい」は+8.0 ポイント。
 - ・避難期間の見通しは、「子供の入学、入園や卒業、卒園まで (35.1%)」が最多。
 - ・避難元の県へ帰還する場合に心配なことは、①「生活資金のこと (47.3%)」、②「放射線の影響のこと (46.4%)」、③「仕事のこと (41.8%)」の順。
- (4) 約 7 割の避難者が心身に何らかの不調
 - ・心身の不調が「特にない」方は 24.4%、無回答は 5.7%で、約 7 割の方が心身に何らかの不調を抱えている。
 - ・①「疲れやすく体がだるい (37.5%)」が最多で、以下、②「イライラする (21.6%)」、③「よく眠れない (21.0%)」④「孤独を感じる (18.2%)」と心の不調に関する項目が続く。
 - ・心の不調に関する項目は、いずれも昨年より減少。
- (5) 相談支援機関の利用は市町村社会福祉協議会が最多
 - ・60.2%が市町村社会福祉協議会を知っており、うち 40.6%が利用。
 - ・相談したいことは、①「生活資金 (19.3%)」、②「定住 (18.2%)」、③「就職支援 (12.5%)」の順。
- (6) 県、市町村、ボランティア団体等による避難者支援は、8 割が評価
 - ・今後、県内で期待する支援は、①「住宅に関すること (39.8%)」、②「生活情報の提供の充実 (29.0%)」、③「生活資金についての相談 (26.7%)」の順。